



ニホンジカの北アルプス侵入阻止大作戦

北安曇地方事務所

現状

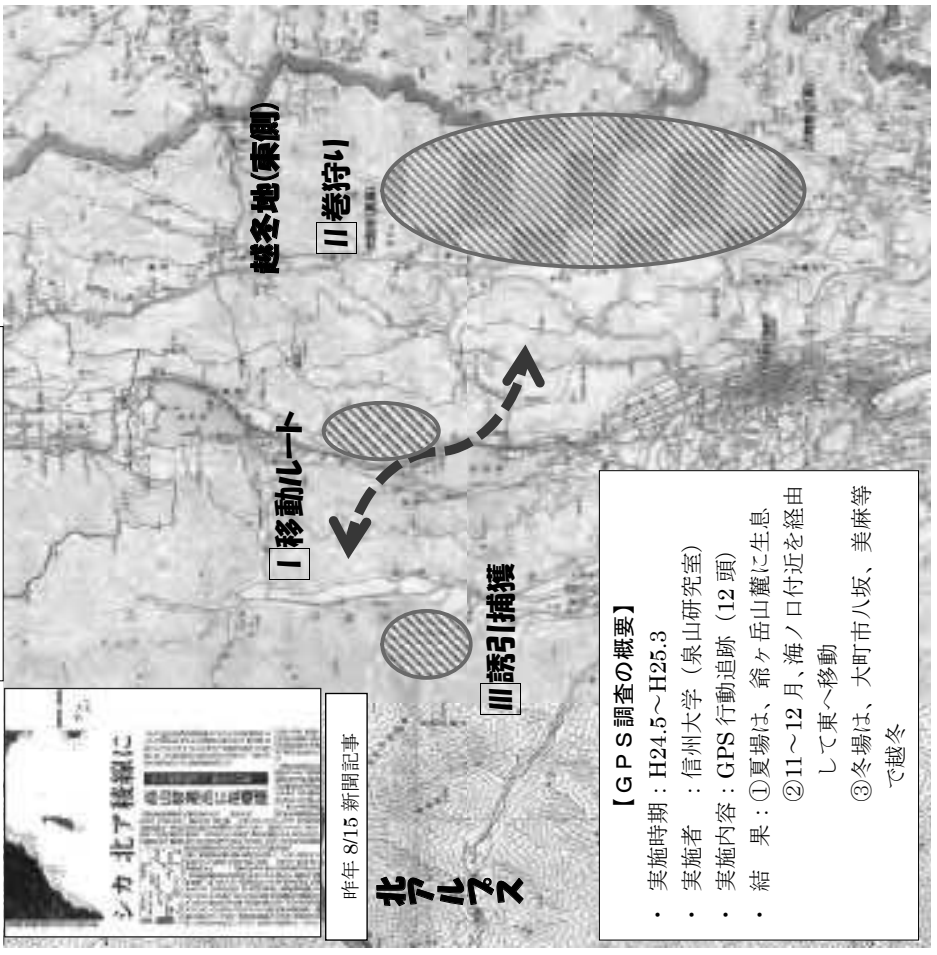
- 北アルプス山麓に位置する大北地域におけるニホンジカは、他の地域と比較すれば低密度な状態であるが、繁殖力が強いいため4～5年で生息数が倍になるといわれている。
- 国との連携の中で、環境省の支援を受けたGPS調査により、移動ルートや越冬地の一部が判明している。

このままでは・・・

- 貴重な高山植物が壊滅的な打撃を受けるおそれ
- 世界に誇る山岳高原観光を推進し、後世に引継ぐためにも

やるのは、今！

事業模式図



事業内容

- | 集中捕獲 | 射撃場の整備 |
|--|--|
| <p>Ⅰ 移動ルート上における集中的なわな捕獲</p> <p>春先の3月下旬～5月下旬及び、冬場に入る11～12月に、移動ルート上にネットを設置し、ルートを固定するなどに、わなによる集中的な捕獲を実施します。</p> | <p>○ 大町総合射撃場の整備</p> <p>ニホンジカのほかライフルでしか仕留められないクマ等大型獣の捕獲に必要なライフル技術の向上・後継者育成のため、大町総合射撃場の整備を支援します。</p> |
| <p>Ⅱ 越冬地での集中的な銃による捕獲（巻狩り）</p> <p>冬場の12月～翌年3月にかけて、雪の少ない東側の越冬地で、勢子（せこ）と射手（いしゆ）に分かれて行う巻狩りにより、広域での集中捕獲を実施します。</p> | <p>【事業費等】</p> <p>1) 捕獲対策（猟友会に委託） 3,000千円/年 (実施期間) H26～28年度 (3年間)</p> <p>2) 施設整備（猟友会へ補助） 10,000千円 (実施期間) H26年度</p> |
| <p>Ⅲ 誘引剤（塩）とわなによる集中捕獲</p> <p>夏場7～9月にかけて、餌場として想定されるスキーマの草原に塩の誘引剤を設置し、わなによる捕獲を実施します。</p> | |

1 趣旨

インバウンド観光で先進的な取組を進めている白馬村では、外国人観光客、特に個人旅行の長期滞在者の増加に伴い、生活習慣等の相違、コミュニケーション不足などに起因するトラブルも発生しており、観光事業者はじめ地域の住民を悩ます問題となっている。
こうしたトラブルの未然防止に向けた体制を整えるとともに、地域ぐるみのおもてなしの向上を図ることにより、国内外からの観光客がともに心地良く過ごせる「世界水準の観光地」をめざす。

2 現状

(1) 白馬村におけるインバウンド観光の推進

- ・ 冬季オリンピック開催地の知名度等を活かした誘致
- ・ 長野駅、首都圏からのアクセスの確保（特急バスの運行）
- ・ 長期滞在者向けサービスの充実（泊食分離の推進など）
- ・ 循環ナイトシャトルバス（宿泊施設 ⇄ 飲食店）の運行
- ・ 外国人向け生活ガイド冊子、ガイドマップの作成など

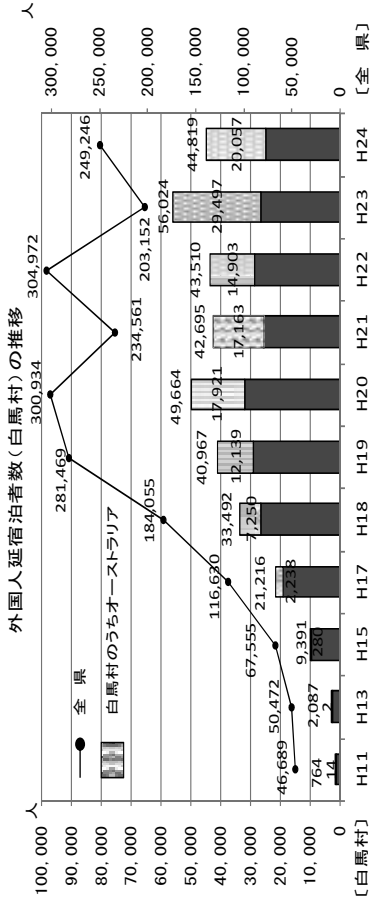


【シャトルバス内の様子】

(2) 外国人観光客の状況

平成24年の外国人宿泊者数は、白馬村が県内で最も多く、延べ44,819人に達している。

※ 白馬村は、平成17年、19年、21年～24年に県下で最多を記録



資料：観光部「外国人宿泊者数調査」

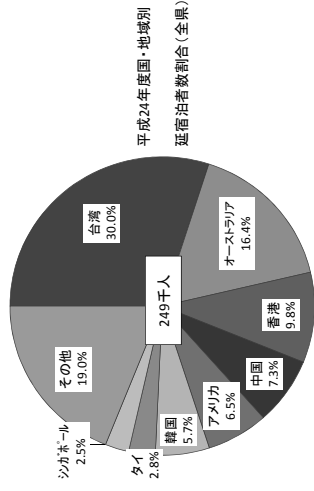
観光客延宿泊者数 (H24)

| | |
|-----|--------|
| 全県 | 27,684 |
| 白馬村 | 1,761 |

外国人延宿泊者数 (H24)

| | |
|----------|-----|
| 全県 | 249 |
| 北アルプス山麓※ | 56 |
| うち白馬村 | 45 |

※ 大町市・白馬村・小谷村



3 課題

- 外国人観光客が増えるトラブル等の増加による観光地としてのイメージダウンや国内外の観光客が敬遠するなどの懸念
【トラブル事例】 ・ 深夜の騒音や喧嘩、花火 ・ バックカントリー滑走等での事故 ・ 病院での受診等のトラブル
- 外国人観光客の地域を挙げた受入体制の構築に向けた取組が必要
【考慮すべき事項】 ・ インバウンド観光に消極的な事業者や住民の存在 ・ 相互理解の推進

4 事業内容

3の課題は、インバウンド観光の進展に伴って県内のいずれの地域においても生じうるものであり、またインバウンド観光の一層の推進と広域化を図っていく上で、解決すべき不可避の課題である。
こうした前提に立ち、白馬村及びその周辺地域において、以下のモデル事業を実施する。

(1) 「外国人観光客と共生する観光地づくり検討連絡会議」の設置

- ・ 白馬村、小谷村、大町市、県（県警を含む）、観光事業者、地域住民（在住外国人を含む）で構成
- ・ トラブル事例等の把握及び情報共有並びにその対策の検討
- ・ サインなどによる情報提供や接客のあり方の検討
- ・ インバウンド観光の先進地の調査、研究

(2) 観光事業者や地域住民に対する普及・啓発

- ・ 啓発パンフ（事業者用・住民用）の作成・配布
- ・ シンポジウム等の開催

(3) 外国人スタッフの配置による受入体制の整備

- ・ インターネットによる情報発信（英語、中国語）
- ・ 外国人観光客に対する要望調査等の実施
- ・ 電話相談等による旅行中のトラブルへの支援 など

《事業費》 10,000千円（平成26年度）

《事業期間》 平成26～28年度（3年間）《検討・試行～本格展開～検証・改善》



- 「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり推進事業」との運動
※ 候補地に北アルプス山麓（白馬・小谷・大町地域）を選定
- 「北陸新幹線延伸を視野に入れたインバウンド観光の推進」関連事業との連携

【白馬村の飲食店にて】

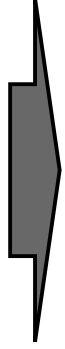


5 期待される効果

- (1) 安全・安心で快適な観光地としての国内外の評価の高まり
- (2) 「世界水準の観光地づくり」に向けた地域環境の整備
… 外国人観光客への情報提供の充実（サインの多言語化など）、地域における多文化理解の推進、宿泊施設等での接客の向上 など
- (3) 事業成果の県内各地への普及と広域観光の推進

1 趣 旨

「ふるさと信州風景百選」の成果を、次のステップである観光振興等へとつなげていく。



- (1) 美しく豊かな景観が持つ誘客力を活かし、観光名所や特産品など地域資源の情報発信を通じて観光振興を図り、元気な地域づくりを進める。
- (2) 風景百選に選定された美しく豊かな農村景観のPRを継続的に行うことにより、信州らしい「ふるさと景観」の一層の普及・定着を図る。

2 事業内容等

- (1) **事業内容** 「ビューポイントマップ」の作成委託 (① Web版 ② スマホアプリ対応版)
 - 「ビューポイントマップ」により、以下の情報を、インターネットを通じて提供する。
 - ア 「ふるさと信州風景百選」に関する情報： 風景写真、位置情報 (マップ)、ルート案内など
 - イ 地域資源に関する情報： 周辺の観光地、景勝地、特産品、季節のイベントなど
 - ※ 春～冬の季節ごとに掲載情報を更新
- (2) **事業主体** 信州・長野県観光協会
 - 観光協会を事業主体・運営主体とする理由は以下のとおり
 - ア 県や市町村の観光協会が保有する膨大な観光情報等を有効に活用することで、情報更新も
 - イ 観光協会と各地の観光協会の間で直接行うことが効率的であること。
- (3) **事業費** 2,500千円 (平成26年度)
 - 「ビューポイントマップ」作成委託費、ポータルサイト開設費、掲載情報の調査等委託費 など

3 期待される効果

- (1) **地域が元気になる (観光振興)**
 - 風景を基点として観光客の滞留性が高まるなど観光振興によって、景観育成を担う地域が元気になる、それが持続する。
- (2) **風景づくりが進む (景観育成)**
 - 「ふるさと風景」への住民の関心が高まり、美しく豊かな景観の維持・創造に向けた地域の取組が促進される。
- (3) **地域の魅力が世界に発信される**
 - インターネットを通じ、農村景観や地域資源の情報を広く発信することにより、信州の農村の魅力の世界にアピールする機会となる。

○「ビューポイントマップ」のイメージ

